

教職員の人材確保について

1 現状と課題

本県における教職員の人材確保については、令和6年度始業時では、小中学校において11名、県立学校において1名の教員が不足しており、6月1日時点では、小中学校において18名、県立学校において13名の教員が不足している状況です。令和5年度の同時期との比較では減少しているものの、教育委員会の最重要課題と認識しています。

近年の特別支援学級の増加や35人学級の導入、退職者の増加により、採用者数が多い状況が続いていることから、常勤講師の多くが正規教員に合格している一方、大量退職と大量採用による年齢構成の変化に伴い産休・育休取得者が増加している状況もあり、本県の教員不足においては、講師の不足が大きな課題となっています。

また、令和6年度に実施した教員採用試験の申込倍率は3.5倍で、採用予定数は確保できている状況にあるものの、申込者数は2,086名（大学3年生を含む）で、記録が残っている平成6年度採用以降で最少となっています。

学校における働き方改革をさらに加速し、教員がやりがいをもって生き生きと働き続けられる環境づくりを進めることにより、社会全体で教職の魅力を高め、県内で教員を志す人を増やしていく必要があります。

【教員の不足状況】

(単位：人)

	R4年度		R5年度		R6年度	
	始業日	9月1日	始業日	9月1日	始業日	6月1日
小学校	8	28	17	31	5	12
中学校	9	20	5	20	6	6
高等学校	1	0	0	2	1	4
特別支援学校	2	0	9	5	0	9
計	20	48	31	58	12	31

- ・学級担任や教科担任が不足し、配置できない状況は生じていません。
- ・常勤講師が配置できない場合は、非常勤講師の配置や当該校の他の教員が不在教員の業務を担うなどして学校運営に支障をきたさないように対応しています。

【教員採用選考試験の申込者数】

(単位：人)

R3年度採用	R4年度採用	R5年度採用	R6年度採用	R7年度採用
2,872	2,631	2,370	2,228	1,919 [2,086]

※ R7は大学3年生を対象とした特別選考を含めた人数を [] 内に表示

- ・申込者数のうち、県内公立学校講師は一貫して減少傾向にあり、学生は昨年度まで700名前後で推移していましたがR7は大きく減少しています(140名減)。
- ・一部の校種・教科・科目において、採用試験の申込者数・受験者数が採用見込み数を下回っています。

【時間外在校等時間が月 45 時間を超える教職員の月平均人数の推移】

	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R5 と R1 の比較
小学校	1,282 人 (18.1%)	678 人 (9.6%)	631 人 (9.0%)	648 人 (9.3%)	626 人 (9.2%)	51.2%減
中学校	1,484 人 (39.2%)	883 人 (23.3%)	873 人 (23.0%)	1,070 人 (28.2%)	1,088 人 (28.7%)	26.7%減
県立学校	542 人 (12.4%)	235 人 (5.0%)	253 人 (5.6%)	422 人 (9.3%)	397 人 (9.0%)	26.8%減

※ () 内は校種ごとの全ての教職員に対する割合

【時間外在校等時間が月 45 時間を超える教職員の状況の全国との比較】

		R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
小学校	三重県	20.6%	9.1%	10.7%	11.3%
	全国平均	39.6%	25.6%	31.4%	29.8%
中学校	三重県	43.4%	19.2%	28.7%	27.6%
	全国平均	53.8%	33.9%	45.4%	44.1%
県立学校	三重県	18.8%	5.4%	9.2%	16.4%
	全国平均	41.6%	22.1%	31.0%	31.8%
特別支援学校	三重県	1.8%	0.7%	1.7%	1.3%
	全国平均	18.9%	9.4%	14.8%	14.7%

※「令和 4 年度教育委員会における学校の働き方改革のための取組状況調査結果」(文部科学省)を基に作成

※令和元年度から令和 4 年度までの 4 月から 8 月の時間外在校等時間を比較

2 令和 6 年度の取組

(1) 教員採用選考試験における取組

- ・教員採用試験の実施時期を 1 か月前倒し
- ・特別免許状の授与を前提とした採用選考試験の実施
- ・大学 3 年生を対象とした小学校教諭の特別選考の実施
- ・令和 7 年度採用試験の 1 次試験免除要件の拡大
例) 令和 6 年度の常勤講師のうち前年度の 1 次試験を合格した者(全免除)

(2) 講師等の人材確保の取組

- ・退職教員や教員免許状を有していながら教職に就いていない人に向けた情報発信、「みえの未来の先生」相談会の実施
- ・各関係機関との連携や企業への働きかけ、過去の講師登記者への連絡による人材の掘り起こし、教員採用試験の不合格者への働きかけ
- ・教員採用選考試験と併せた育児休業等代替任期付講師等の選考
- ・専門性を有する人への臨時免許状の発行

(3) SNS等を活用した情報発信の取組

- ・ 県のホームページ、SNSを活用した教員採用選考試験の情報発信
- ・ 教職の魅力を発信するパンフレットや動画のリニューアル

(4) 教職の魅力を伝えるガイダンスや説明会の実施

- ・ 大学生を対象とした教職ガイダンスや教員採用試験の説明会の実施
- ・ 教職の魅力や教員免許状の取得方法について周知
- ・ 県内高校生を対象とした教員の魅力を発信する説明会の開催

(5) 大学と連携した取組

- ・ 大学生が現職教員と共に授業実践研修に参加する機会の提供
- ・ 大学の教職講座へ県教育委員会事務局職員を講師として派遣
- ・ 教員を志す大学生等を教育アシスタントとして学校現場に受入れ

(6) 学校における働き方改革の取組

- ・ 総勤務時間縮減に係る目標の設定と統一した3項目（定時退校日設定、部活動休養日の設定、会議時間の短縮）の実施
- ・ ICTを活用した業務の効率化・自動採点システムやAIドリルの活用等
- ・ オンライン会議、オンデマンド配信による研修の実施
- ・ 生成AIを活用した事務処理・授業等に係る調査・研究
- ・ 学校および教職員が担う業務の見直し
- ・ 各学校における総勤務時間縮減に向けた課題を解決するための主体的な取組の推進
- ・ 中学校における休日の部活動の地域連携・地域移行を含む部活動改革

(7) 専門人材・地域人材の活用

- ・ スクールカウンセラー
- ・ スクールソーシャルワーカー
- ・ 部活動指導員
- ・ スクール・サポート・スタッフ
- ・ 教頭マネジメント支援員*（新規）
- ・ 学校問題解決支援員**（新規）

*学校マネジメント等に係る業務（教職員の勤務管理事務支援、保護者や外部との連絡調整等）を専門的に支援（小中学校 11名）

**県教育委員会内に学校問題解決支援員を配置し、保護者や教員からの相談に対応（2名）

【専門人材・地域人材の状況の推移】

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
スクールカウンセラー	62,969 時間	65,640 時間	68,557 時間	74,020 時間
スクールソーシャルワーカー	13,705 時間	16,619 時間	24,624 時間	25,119 時間
部活動指導員	90 名	122 名	172 名	222 名
スクール・サポート・スタッフ	全校配置	全校配置	全校配置	全校配置

※部活動指導員：中学校は運動部、文化部の計（予算上の人数）、高等学校は運動部

3 今後の対応

正規教員を計画的に採用できるよう、年度ごとに採用計画を見直すとともに、高校生や大学生に対する教職の魅力発信、採用試験の工夫改善、教員免許保有者への積極的な働きかけなどの取組を進め、教員志望者の確保を図ります。

また、教員養成を担う県内大学と連携し、地域課題に強み・専門性を有する志望者を継続的・安定的に確保し、県内での教員採用につながるような取組を進めます。